

教員の研究成果や知識… 書籍化300冊超

弘大出版会が20周年



弘前大学出版会が今年度、設立20周年を迎えた。多くの国立大で別の法人・団体として大学出版部が活動している中、弘前大出版会は国立大で初めて大学内組織で運営。同大教員の研究成果などをまとめた一般書や教科書など刊行物は20年間で300冊を超えており、6代目編集長の柏木明子教授＝農学生命科学部＝は「これからも地域への還元を目指した出版物を届けていく」と力を込める。(稲葉智絵)

弘前大出版会は2004年6月、国立大の法人化に伴い設立。「教員(特に文系)の研究成果発表の場」「学生のための教科書」「学生たちの経験値を上げる」をコンセプトに、各学部・研究科の教授らで構成する編集員、運営委員が企画立案、出版業務などを担う。

出版会設立以前の研究成果の発表方法について、柏木編集長は「理系は学術雑誌などに掲載することができ、文系は民間の出版社へ持ち込む必要があった」と説明。設立後は「研究成果を国内外に広くアピールすることができるようになった」と振り返る。

同大出版会は、専門性の高い「学術論文・研究書」をはじめ、分野別シリーズの「出版会叢書」、教科書、定期刊行物、一般書など、さまざまなジャンルの書籍を出版する。

刊行物は全国の書店で販売されるほか、県内外の図書館に所蔵されているとい

編集長の地域還元へ意気込み

柏木教授

今年度はこれまでに一般書2冊、定期刊行物1冊を発売。そのうちの1冊(一般書)が設立20周年を記念した「弘前大学レクチャーコレクション2」学びの世界へようこそ。各部署の教員の研究内容などがエッセイでまとめられており、柏木編集長は「本学教員の生きざまを、次世代を担う学生や高校生たちに伝えるため、読む『講義』のスタイルを取った」と話した。

今年2月には同大人文学部科学部北日本考古学研究所センターが編集した「地域からの考古学―弘前大学の挑戦」の発刊も予定している。

20年間で300冊を超える書籍を世に送り出してきた同大出版会。柏木編集長はこれらの書籍を「読むオープンキャンパス」と強調。「(書籍を通じて)弘前大を知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけになる。まだまだ知られていない研究もある。本学にとって、大事な芽」となる教員の研究成果や知識を書籍化して「く」と意気込んでいる。

弘前大学出版会設立20周年の記念に刊行した書籍を手元に節目を喜ぶ柏木編集長

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問合せ先]弘前大学出版会 hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。